

高校日本史プリント（過去問類似）

近代Ⅱ（大正～二つの大戦） No.5

名前

得点

/10

問1 大正デモクラシー期において、雑誌『東洋経済新報』を拠点に活動したジャーナリストで、台湾や朝鮮などの植民地を放棄して平和的な経済立国を目指すべきであるとする「小日本主義」を唱え、第二次世界大戦後には内閣総理大臣に就任した人物は誰か。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 石橋湛山 2. 徳富蘇峰 3. 三宅雪嶺 4. 吉野作造

問2 1918年、米騒動の混乱の中で寺内正毅内閣が退陣した後に首相となった人物は誰か。この人物は、陸相・海相・外相を除くすべての閣僚を衆議院の第一党である立憲政友会の黨員から起用し、初の本格的な政党内閣を組織したが、1921年に東京駅で刺殺された。（2010年 全国公立入試 類似）

1. 原敬 2. 加藤高明 3. 高橋是清 4. 桂太郎

問3 日中戦争から太平洋戦争期にかけて、日本とその勢力圏にあった満洲国などの選手が参加して開催され、対外的な宣伝や戦時下の結束、および「大東亜共栄圏」の親善をアピールするために利用されたスポーツ大会は何か。（2014年 全国公立入試 類似）

1. 極東選手権大会 2. 東亜競技大会 3. 極東競技大会 4. 明治神宮大会

問4 1930年代後半の中国では、迫り来る日本の侵略に対して、内戦を停止して一致して抗日にあたるべきだという世論が高まった。このような情勢下、1936年12月に張学良らが国民政府の指導者を監禁し、内戦停止と一致抗日を要求した出来事は何か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 西安事件 2. 戊戌政変 3. 済南事件 4. 辛亥革命

問5 田中義一内閣の退陣後、1929年に組織された内閣の首相で、蔵相に井上準之助を起用して金解禁を断行し、外相に幣原喜重郎を起用して協調外交を復活させたものの、軍縮条約の調印をめぐる統帥権干犯問題が惹起され、東京駅で狙撃されて退陣を余儀なくされた人物は誰か。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 田中義一 2. 浜口雄幸 3. 近衛文麿 4. 岡田啓介

問6 第一次世界大戦後の日本では、民主主義的な思潮の高まりを背景に、抑圧された人々による自主的な権利獲得運動が活発化した。1922年に結成され、差別的な言動に対して徹底的な糾弾闘争を展開するとともに、労働運動や農民運動とも連携しながら、被差別部落の解放を目指した組織は何か。（2021年 全国公立入試 類似）

1. 日本共産党 2. 社会民衆党 3. 全国水平社 4. 新婦人協会

問7 1930年代、満州事変や五・一五事件などを経て軍部の影響力が強まるなか、軍人が上官に反抗して政治への干渉を行う状況を「規律の頹廃」と捉え、国家を滅亡に導く危険な行為であるとして強く軍部批判を展開した、衆議院議員を長年務めた政治家は誰か。（2008年 全国公立入試 類似）

1. 尾崎行雄 2. 高橋是清 3. 浜口雄幸 4. 加藤高明

問8 1937年に盧溝橋事件を契機として日中戦争が勃発すると、当時の近衛文麿内閣は、挙国一致や尽忠報国などを掲げて国民を戦争へと動員・組織化するためのキャンペーンを開始した。職場ごとに結成された組織などを通じて、国民の私生活や思想の統制、戦争への協力を強要したこの運動の名称を何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 国民生活新体制運動 2. 国民精神総動員運動 3. 国民精神作興運動 4. 農山漁村経済更生運動

問9 大正期、新聞広告などを通じて「滋養品」として宣伝され、小児の常用に適するだけでなく、事務家や読書家、運動家といった大人の精神的・肉体的疲労を癒す効果があるとして、幅広い層に向けて普及が進められた、森永製菓の代表的な洋菓子は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. チョコレート 2. アイスクリーム 3. ミルクキャラメル 4. ビスケット

問10 それまでヨーロッパからの輸入に依存していた機械器具や化学製品の国産化が本格化し、日本の産業構造が重化学工業化へと大きく舵を切る契機となった、1914年に勃発した世界規模の戦争は何か。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 第二次世界大戦 2. 第一次世界大戦 3. 第一次中東戦争 4. 第二次中東戦争

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 1 石橋湛山	『東洋経済新報』の記者・主幹として活躍した人物は、大国主義的な領土拡張を批判し、植民地を放棄して産業や貿易による平和的な発展を目指す「小日本主義」を提唱した。戦後には内閣総理大臣（1956年12月～1957年2月）となった。
問2	答え 1 原敬	米騒動の責任をとって総辞職した寺内正毅内閣の後、立憲政友会総裁であった原敬が首相に就任した。原は爵位を持たない衆議院議員であったため「平民宰相」と呼ばれ、陸・海・外相以外の閣僚を自党員で固める本格的な政党内閣を組織した。しかし、1921年に東京駅で刺殺された。なお、同様に東京駅で狙撃された首相には浜口雄幸がいるが、浜口の狙撃は1930年であり、翌年に死去しているため区別が必要である。
問3	答え 2 東亜競技大会	日中戦争の勃発以降、日本は国際的な孤立を深め、1940年に予定されていた東京オリンピックの開催を返上した。その代替や、日本の勢力圏内における結束を示すため、1940年などに満洲国や汪兆銘政権などの選手を招いた東亜競技大会が開催され、国威発揚や対外宣伝に利用された。
問4	答え 1 西安事件	1936年12月、東北軍の張学良らが陝西省を訪れた国民政府の蔣介石を監禁し、共産党との内戦を停止して一致して抗日闘争に立ち上がるよう要求した。この出来事を契機に、第二次国共合作に向けた動きが本格化し、抗日民族統一戦線の形成へとつながった。
問5	答え 2 浜口雄幸	田中義一内閣が張作霖爆殺事件の処理をめぐる昭和天皇の不信を買って退陣した後、立憲民政党総裁の浜口雄幸が首相に就任した。浜口内閣は金解禁の断行やロンドン海軍軍縮条約の調印など内政・外交で大きな成果を上げたが、軍縮条約調印に反対する右翼の青年に東京駅で狙撃され、重傷を負ったのちに退陣・死去した。
問6	答え 3 全国水平社	大正デモクラシー期における社会運動の多角化を示す事例である。この組織は、それまでの同情を求める運動から脱却し、自立的かつ戦闘的な糾弾闘争を通じて、被差別部落の社会的地位向上と差別の撤廃を求めて活動した。
問7	答え 1 尾崎行雄	満州事変や五・一五事件の発生以降、軍部が政治的主導権を握る動きが加速した。こうした状況に対し、大正デモクラシー期から活躍し「憲政の神様」とも呼ばれた尾崎行雄は、軍人が本来の任務を外れて政治に関与し、勝手な振る舞いをするを国家の危機として厳しく批判した。彼は軍部の行動を規律の頹廃とみなし、これを支持する世論や官僚の姿勢に対しても警鐘を鳴らし続けた。
問8	答え 2 国民精神総動員運動	1937年の日中戦争開始に伴い、第1次近衛文麿内閣のもとで開始された国民統制・動員運動。この運動の一環として、職場ごとに産業報国会が組織され、労働争議の禁止と生産増強が図られた。なお、1942年の翼賛選挙は東条英機内閣期に行われたものであり、時期や内閣が異なる。
問9	答え 3 ミルクキャラメル	大正期には、都市化の進展やメディアの発達に伴い、大衆消費社会が形成され始めた。1913（大正2）年の新聞広告などにおいて、この洋菓子は単なる嗜好品としてではなく、栄養価の高い「滋養品」としてアピールされた。子どもだけでなく、頭脳労働を行う事務家や読書家、肉体を使う運動家など、大人の疲労回復や健康維持にも有効であると宣伝されたことで、幅広い消費層を獲得し、近代日本における大衆的な食文化の普及を象徴する商品となった。
問10	答え 2 第一次世界大戦	1914年に勃発したこの大戦により、ヨーロッパの先進工業国からの機械や化学製品の輸入が途絶した。これにより、日本国内ではこれらの物資の国産化が急務となり、重化学工業の発展が急速に促されることとなった。